

実証目的

AIとIoTを活用したリアルタイムの混雑情報発信

事業概要

地域の商店街の各店舗や観光地、大型商業施設、天災事に指定されている各避難所など様々な場所にボタン型デバイスを設置し、まずはリアルタイムの混雑状況を配信し地域住民の方々が確認できる環境を整備するところから実証実験をスタート。AIとIoTの力を活用して、リアルタイムの空席・混雑状況を検知。情報をスマートフォンやデジタルサイネージに配信することが可能となる。地域住民の方々においては、自身の生活圏内の身近な場所の混雑状況がリアルタイムで把握できることから、非常に利便性の高いものになると考えている。

解決する課題

AI・IoTのテクノロジーを活用して街全体の利便性を高めるとともに、混雑状況を可視化することで安心・安全な体験に寄与できると考えている。コロナ禍では、感染リスクを避けるべく混雑している場所の把握が非常に重要となっている。また、混雑している場所では待ち時間が発生してしまう可能性が高く、時間を有効活用するには「今空いている」場所の把握も大切だ。様々な「空き」や「混雑」情報を可視化する弊社サービスを拡大することで、コロナ禍ではもちろんのこと、生活における各場面で、より効率的でストレスのない過ごし方に寄与すると考えている。

先駆性・独自性

弊社保有のリアルタイム空き情報プラットフォーム「VACAN」を活用することで、カメラや各種センサなどの様々な方法を活用/併用することができ、その場所に最適な方法で混雑状況を検知することが可能となる。また、これらの混雑情報を、どこでも簡単に確認ができるスマートフォンや、誰もが簡単に確認ができるデジタルサイネージなど、様々な方法で配信することができる。混雑状況の可視化を様々な最適な方法で実現できるため、特定の施設のみではなく、利用者が生活の中で体験する様々な場面において活用できるサービスとなっている。

実証内容

施設側



電車・バス
(優先席/車輪)



駐車場・駐輪場
(自動運転/遠隔)



ショッピングセンター・空港
(レストラン/カフェ/居酒屋/ファストフード)

3密対策を実施しているのに、なかなかお客様が来てくれない

コロナウィルスの脅威がなくなったわけじゃないから、まだ出掛けるのが怖い

空席プラットフォームVACANを通して
コロナ対策や混雑状況を配信



施設への集客、送客につなげる

生活者

